

SDGs 達成に向けたプロスポーツチームの パートナー連携戦略の構築 —J1クラブにおける SDGs 活動の実態から—

スポーツビジネス研究領域
5020A072-5 李 庚羽

研究指導教員: 武藤 泰明 教授

【序論】

「持続可能な開発目標 :Sustainable Development Goals」(以下、「SDGs」と表記)の達成において、企業は重要な役割を持つとされる、自らの強みを生かしつつ、事業活動を通じて SDGs に貢献し、その結果を社会に公表すべきであると期待される。

日本においてはスポーツを通じて社会に貢献することは決して新しい概念ではない。一つの典型例としてJリーグでは、「社会貢献」の活動趣旨が見られ、地域をめぐる活動の展開が義務となっている。とはいえ、その傘下にあるJクラブも地域貢献活動を行う。クラブは原則として法人格が株式会社であるため、一般的な了解としては利益を追求し、株主に配当金を払う。しかし武藤(2013)は、Jクラブは「株式会社だが、非営利」と述べている。Jクラブが株式会社でありながら、非営利で公益性を追求するのはJリーグの大きな特徴であるとのことである。

そこで本研究では、Jクラブのような株式会社でありながら公益性を持つ日本のプロスポーツチームが、SDGs活動を戦略的に行う方法について、J1クラブにおけるSDGs活動の実態を整理した上で、プロスポーツチームの持続的な経営と「スポーツSDGs」の達成を同時に実現するパートナー連携戦略の構築を試論することを目的とする。

【先行研究の検討】

SDGsの策定と概要、特徴、また企業の経営戦略構築におけるSDGsの意味について日本

の先行研究を中心に検討したところ、企業におけるSDGsの活用方法として、社会的価値と経済的価値を同時に実現するポーターらによるCSV(Creating Shared Value)が有効であると確認した。これを踏まえ、プロスポーツチームがCSVにおける「ビジネスを営む地域における産業クラスター」でどのような社会的価値を創出しているかを把握するため、ステークホルダー理論の援用が有用になると考え、プロスポーツチームのステークホルダーに関しての先行研究の検討を行った。しかしながら、日本ではそれに関する議論はまだまだ少なく、SDGs活動をテーマにしたものに至っては皆無だった。

【研究目的】

本研究の目的は、SDGsの達成を目指す地域活動を積極的に行うプロスポーツチームが、CSV(Creating Shared Value)論とステークホルダー論の観点から、チーム自体の経済的価値と社会的価値の双方を実現する可能性を高めるビジネスモデルの構築を試みようとするものである。

【研究方法】

本研究ではオープンデータからJ1クラブにおけるSDGs活動の実態とその活動に関与した行為者について文献調査を行った。次いで、文献調査の結果について、クラブスタッフへのオンラインインタビュー調査を事実確認として行った。最後に、J1クラブにおけるSDGs活動の実態から、「スポーツSDGs」の活用方策として、プロスポーツチームのパー

トナー連携戦略の構築について考察・議論した。

【研究結果】

J1クラブにおけるSDGs活動の実態について、「特設サイトの有無」、「クラブ全体のSDGsプロジェクトの名称」、「主なSDGs関連取り組みの名称」、「主な活動内容」、「取り組んでいるSDGsカテゴリー/取り組みテーマ」、「活動に参与する協働者」という6つの項目で整理した。

そして、武藤(2013)のクラブチームステークホルダーの概念を援用し、J1クラブにおけるSDGs関連活動のステークホルダーの分類を試みた。

最後に、J1クラブがSDGs活動のために協力を求める対象と内容について把握するために、J1クラブがステークホルダーと結んだ連携締結に注目し、その対象と協力事項を調べてまとめた。

【考察】

文献調査とインタビュー調査を通じ、以下の2点が明らかになった。第1に、J1クラブは地域活動に因んだSDGs活動を行う。第2に、J1クラブは地域活動を通じてSDGs3、4、11、17に最も貢献する。

また、J1クラブは他のステークホルダーと協働し、SDGs3、4、11、17以外のSDGs項目に貢献している。そのステークホルダーとの協働関係で、J1クラブが形成した社会的価値創造のメカニズムについて図1にまとめた。J1クラブは各ステークホルダーと連携し、互いの強みで補い合いつつ、SDGs達成に貢献し、チームの社会的価値を創出する。

こうした社会的価値を経済的価値にどうつなげるかについて、武藤(2013)の「クラブのメッセージ性」が重要である。その活用として、図2で示した通り、強化型と補完型というプロスポーツチームのパートナー連携戦略が考えられる。

強化型とは、J1クラブと協力者がSDGs3、4、11、17のいずれかのゴールを目指し、事業活動を通じて協力をするときの連

携形態を指す。補完型とは、J1クラブと協力者がSDGs3、4、11、17以外のゴールを目指し、事業活動を通じて協力するときの連携形態を指す。

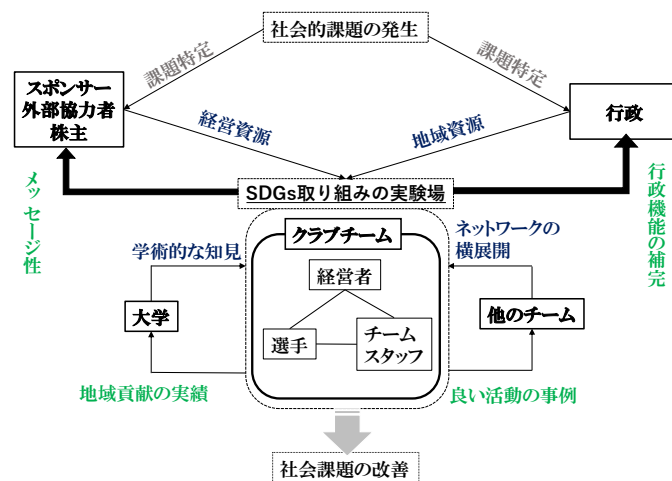


図1 J1クラブにおける社会的価値創造のメカニズム

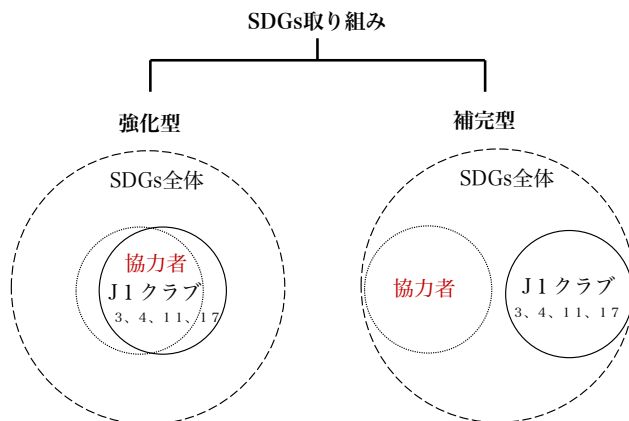


図2 SDGs達成に向けたプロスポーツチームの連携戦略

【結論】

本研究では、J1クラブにおけるSDGsの取り組みの実態を分析し、いくつかの特徴を明らかにした。J1クラブはSDGsの実験場として周囲のステークホルダーと連携締結を結び、互いの強みを生かしつつ、SDGs達成に向けて協働している。

こうして、J1クラブにおけるSDGs活動の実態から、「スポーツSDGs」の活用の一つとして、「強化型」と「補完型」というクラブのメッセージ性（武藤、2013）に基づくプロスポーツチームの連携戦略を得ることができた。